



アクティビティの管理

使用しているモードが **Workflow** モードか **Workflow** 以外のモードかにかかわらず、すべてのポリシー設定はアクティビティ内部で行われます。アクティビティは、**Workflow** 以外のモードでは設定セッションとも呼ばれます。**Workflow** モードでは、アクティビティを明示的に作成および管理する必要があります。これに対し、**Workflow** 以外のモードでは、アクティビティの作成および管理のほとんどは自動的に行われます。ただし、**Workflow** 以外のモードでは、ポリシーを変更するときは実際はアクティビティ内部で作業することになるため、アクティビティの基本的な概念を理解しておく必要があります。

チケット管理が有効になっている **Workflow** 以外のモードでは、チケットを開くたびにアクティビティが自動的かつ透過的に作成されます。このモードでは、チケットを明示的に開いて管理する必要があります。

ここでは、アクティビティに関する情報を提供します。

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットの操作 \(9 ページ\)](#)

アクティビティについて

アクティビティとは、ポリシーの定義およびデバイスへの割り当てを行うための一時的なコンテキストです。デバイスをインポート、作成、または削除する場合や、各種のシステム管理タスクを実行する場合は、アクティビティを作成する必要はありません（ただし、アクションの一部としてポリシー ディスカバリを実行する場合を除きます）。

アクティビティを作成または開くための要件は、**Workflow** モードによって異なります。

- チケット管理が有効になっている **Workflow** 以外のモード：チケットを開くたびに、アクティビティが自動的かつ透過的に作成されます。チケットを明示的に開かない場合、アクティビティを必要とするアクションを実行するたびに、新しいチケットを作成するか、既存のチケットを開くように要求されます。このモードでは、チケットを明示的に開いて管理する必要があります。
- チケット管理が有効でない **Workflow** 以外のモード：ポリシーの定義、変更、またはデバイスへの割り当てを行うたびに、アクティビティが自動的かつ透過的に作成されます。変更をデータベースに送信するまでは、同じアクティビティが使用され、必要に応じて自動

的に閉じたり再び開いたりします。Workflow 以外のモードでは、アクティビティを明示的に開いたり管理したりすることはできません。これらのタイプのアクティビティは、設定セッションと呼ばれることもあります。

- Workflow モード：アクティビティを明示的に開かない場合、アクティビティを必要とするアクションを実行すると、新しいアクティビティを作成するか、既存のアクティビティを開くように要求されます。Workflow モードでは、アクティビティを明示的に開いて管理する必要があります。



- (注) Workflow モードは、チケット管理が有効か無効かに関係なく、同じように機能します。Workflow モードでチケット管理を有効にすると、アクティビティで使用する [チケット (Ticket)] フィールドが有効になります。チケット ID の入力は必須ではありませんが、使用する場合は、外部の変更管理システムにリンクするように [チケット (Ticket)] フィールドを設定できます。詳細については、「チケット管理」を参照してください。

アクティビティを自分で作成するか、またはアクティビティが自動的に作成されると、Security Manager ポリシーデータベースの仮想コピーが開きます。このコピー内でポリシーを定義して割り当てます。このコピー内で行った変更は、コピーの内部でだけ使用可能です。他のユーザが別のアクティビティ内でこれらの変更を表示することはできません。アクティビティが送信されて承認 (Workflow モード) されると、このコピー内部の変更がデータベースにコミットされ、他のすべてのユーザが変更を表示できるようになります。そのあと、関連する CLI コマンドを生成してデバイスに展開するための展開ジョブを作成できます。

アクティビティの変更を送信する方法は、Workflow モードによって異なります。

- チケット管理のある Workflow 以外のモード (デフォルト) : [チケット (Tickets)] > [チケットの送信 (Submit Ticket)] を選択して、変更をポリシーデータベースに送信します。
- チケット管理のない Workflow 以外のモード (デフォルト) : [ファイル (File)] > [送信 (Submit)] を選択して、変更をポリシーデータベースに送信します。
- Workflow モード：アクティビティアプルーバを使用する場合は、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの送信 (Submit Activity)] を選択するか、個別のアクティビティアプルーバを使用しない場合は、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの承認 (Approve Activity)] を選択します。

ここでは、アクティビティが重要である理由と、Workflow モードでのアクティビティの動作について説明します。

- [アクティビティの利点 \(3 ページ\)](#)
- [アクティビティの承認 \(3 ページ\)](#)
- [アクティビティとロッキング \(4 ページ\)](#)
- [アクティビティと複数のユーザ \(5 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットの状態について \(5 ページ\)](#)

アクティビティの利点

アクティビティを使用して、ポリシーおよびポリシー割り当てに対して行われる変更を制御します。アクティビティがどのように実装されるかは、選択したワークフロー設定によって異なりますが、すべてのアクティビティに共通して次のような利点があります。

- **監査証跡**：アクティビティによって、**Security Manager** で行われた変更が追跡されます。[アクティビティ/チケットのステータスおよび履歴の表示 \(31 ページ\)](#) で説明しているように、この情報を使用して、どのような変更が誰によって行われたかを判断できます。また、[監査レポートの使用](#)で説明しているように、**Workflow** モードと **Workflow** 以外のモードのどちらにも、アクティビティおよびその他のアクションに可視性を提供するための監査レポートが用意されています。
- **安全性メカニズム**：アクティビティは、変更を重ねて実験するための手段を提供します。変更はプライベート データベース ビューに対して行うため、その変更を実装しない場合は、アクティビティまたは設定セッションを廃棄します。詳細については、[アクティビティ/チケットの破棄 \(29 ページ\)](#) を参照してください。
- **タスク分離**：あるアクティビティ（または設定セッション）内で変更されたポリシーは、別のアクティビティ内で変更されないようにロックされます。このため、変更の競合によりポリシーが不安定になることはありません。詳細については、[アクティビティとロックング \(4 ページ\)](#) を参照してください。

また、アクティビティ内で行った変更は、そのアクティビティ内部でだけ表示されます。その他のユーザには、最後に承認されたコミット済みの設定だけが表示されます。ただし、（**Workflow** モードで）アクティビティを閉じる前に他のユーザにアクティビティが表示されていた場合を除きます。

アクティビティの承認

Workflow モードをイネーブルにした場合、アクティビティ アプルーバを使用するかどうかを選択できます。

アクティビティを承認するための上位の権限を持つ別の人が組織に必要な場合は、アプルーバを使用してワークフローをイネーブル化できます。**Workflow** モードでアプルーバを使用する場合は、ポリシーをデータベースにコミットできるように、適切な権限を持つ人がアクティビティを承認する必要があります。ポリシー定義レベルでこの承認プロセスを使用すると、ネットワーク デバイスに不適切な設定が適用されることはありません。

アプルーバを使用しないように選択した場合は、ポリシーを定義した人がそのポリシーを承認する権限を持ちます。

アクティビティ承認をイネーブルまたはディセーブルにし、デフォルトのアクティビティアプルーバを変更する方法の詳細については、[\[Workflow\] ページ](#)を参照してください。

アクティビティとロックング

複数のユーザが競合する変更を行うことがないように、Workflow モードまたは Workflow 以外のモードでユーザがアクティビティまたは設定セッション内で特定のアクションを実行すると、Security Manager によってアクティビティレベルのロックが取得されます。このため、複数のユーザが同じ機能ポリシー、ポリシー割り当て、またはオブジェクトに対して同時に変更を行うことができなくなります。

また、Security Manager では、ロックングを使用して、コミット済みの設定に関連する操作が常に互いに排他的に実行されるようにしています。これらの操作は、2つのカテゴリに分けられます。

コミット済みの設定を変更する操作：

- アクティビティの承認。Workflow 以外のモードでの設定セッションの送信が含まれます。
- デバイスの削除。
- デバイス プロパティの編集。

コミット済みの設定を読み込む操作：

- 設定のプレビュー。
- 展開 (Workflow 以外のモード)。
- 展開ジョブの作成 (Workflow 以外のモード)。
- アクティビティまたは設定セッションの検証。

コミット済みの設定を変更する操作を実行している間は、その操作が完了するまで、他のユーザはどちらのリストの操作も実行できません。ユーザが操作を試行すると、アクションおよびアクティビティ (または Workflow 以外のモードではユーザ) がロックされていることを示すエラーメッセージが表示されます。たとえば、アクティビティを承認している間 (Workflow 以外のモードでは、アクティビティが送信されると自動的に実行される)、その承認が完了するまで、他のユーザがデバイスを削除したり、別のアクティビティを検証したりすることはできません。このタイプのロックングは、コミット済みの設定を複数のユーザが同時に変更することを回避できるため、マルチユーザ設定においては特に重要になります。

コミット済みの設定を読み込む操作を実行している間、コミット済みの設定を変更する操作はだれも実行できません。たとえば、アクティビティを検証している間、別のユーザはアクティビティを承認できません。ただし、設定を読み込む別の操作を他のユーザが実行することはできます。たとえば、アクティビティを検証している間、別のユーザは展開ジョブを作成できます。同様に、展開前に設定をプレビューしている間、別のユーザも同じように設定をプレビューできます。これは、この2つの操作ではコミット済みの設定が読み込まれるだけで、設定が変更されることはないためです。



ヒント アクティビティロックの方が、ポリシーロックよりも広範囲です。これについては、[ポリシーのロックについて](#)で説明しています。ポリシーロックにより、2人のユーザが同じデバイス上の同じポリシーを同時に変更することを回避しています。

関連項目

- [アクティビティの承認または拒否 \(Workflow モード\)](#) (27 ページ)
- [Security Manager インベントリからのデバイスの削除](#)
- [デバイス プロパティの表示または変更](#)
- [展開および Configuration Archive の使用](#)
- [アクティビティ/チケットの検証](#) (24 ページ)

アクティビティと複数のユーザ

各アクティビティ内でポリシーを同時に定義または変更できるのは、1人のユーザだけです。ただし、Workflow モードがイネーブルになっている場合、または Workflow 以外のモードでチケット管理がイネーブルになっている場合は、アクティビティ内で複数のユーザが順番に作業できます。つまり、アクティビティまたはチケットが閉じている（ただし、承認はされておらず、承認のための送信もされていない）場合は、別のユーザがそのアクティビティを開いて変更できます（必要な権限を持っている場合）。複数のユーザは、異なるアクティビティで並行して作業できます。

アクティビティ/チケットの状態について

Workflow モードでのアクティビティと Workflow 以外のモードでのチケット（チケット管理が有効な場合）の状態について、次の表で説明します。主要な状態は太字で示しています。

表 1: アクティビティ/チケットの状態

状態	説明
Edit	アクティビティ/チケットは作成されましたが、現在編集ではありません。アクティビティ/チケットは、 [編集 (Edit)] 状態のとき、開いたり破棄したりできます。

状態	説明
Edit Open	<p>アクティビティ/チケットは編集用に開かれています。アクティビティ/チケット内で、ポリシーの定義や割り当てなどの変更を実行できます。アクティビティ/チケット内で設定中または変更中のポリシー、ポリシー割り当て（ポリシーを割り当てるデバイス）、およびオブジェクトは、ロックされます。つまり、これらを別のアクティビティ/チケットのコンテキスト内で設定または変更することはできません。アクティビティは、[編集がオープン（Edit Open）]状態のとき、閉じる、破棄、送信、または承認できます。チケットは、[編集がオープン（Edit Open）]状態のとき、閉じる、破棄、または送信できます。</p> <p>設定の変更は、アクティビティ/チケットのコンテキストでのみ確認できます。</p>
送信済み (Submitted) Submitted Open	<p>アクティビティが確認および承認のために送信されたか、またはチケットが送信されました（Workflow モードでは、アクティビティ承認が必要な場合だけこの状態を使用できます。詳細については、[Workflow] ページを参照してください）。アクティビティ/チケット内でこれ以上変更することはできません。ポリシー、（ポリシー割り当てを介する）デバイス、またはポリシー変更の影響を受けるオブジェクトは、他のアクティビティ/チケットに対してロックされたままになります。</p> <p>アクティビティが送信されると、電子メールがアプルーバに送信されます。アプルーバは、アクティビティを（読み取り専用モードで、[Submitted Open] 状態に移行して）開いて、アクティビティ内の変更を確認してから、変更を承認または拒否できます。承認されたアクティビティは、[Approved] 状態に移行します。拒否されたアクティビティは、[Edit] 状態に戻ります。</p>
承認済み (Approved) (Workflow モードのみ)	<p>アクティビティは承認され、対応する設定要素がコミット済みのポリシー設定となりました。ポリシー変更の影響を受けるデバイスは、他のアクティビティに対してロック解除されます。アクティビティは、[承認済み（Approved）]状態のときに展開できます。</p>
承認失敗 (Approve Failed) (Workflow モードのみ)	<p>承認中に（電源障害などにより）エラーが発生すると、アクティビティは [Approve Failed] 状態になります。この場合は、アクティビティを再び承認するか、サーバをリブートしてください。</p>
破棄 (Discarded)	<p>アクティビティ/チケットの作成後にアクティビティ/チケットに対して行われた変更は破棄され、アクティビティ/チケットをそれ以上変更することはできません。アクティビティ/チケットに関連付けられているデバイスはロック解除され、新しいアクティビティ/チケットで使用できるようになります。アクティビティ/チケットは、システムから削除されないかぎりテーブルに残り、[破棄 (Discarded)] 状態が表示されます。</p>

図1: チケットのワークフロー (7 ページ) は、チケットワークフローの段階を示しています。図2: アプルーバを使用しないアクティビティワークフロー (8 ページ) は、アプルーバを使用しないアクティビティワークフローの段階を示しています。図3: アプルーバを使用するアクティビティワークフロー (9 ページ) は、アプルーバを使用するアクティビティワークフローの段階を示しています。

図1: チケットのワークフロー

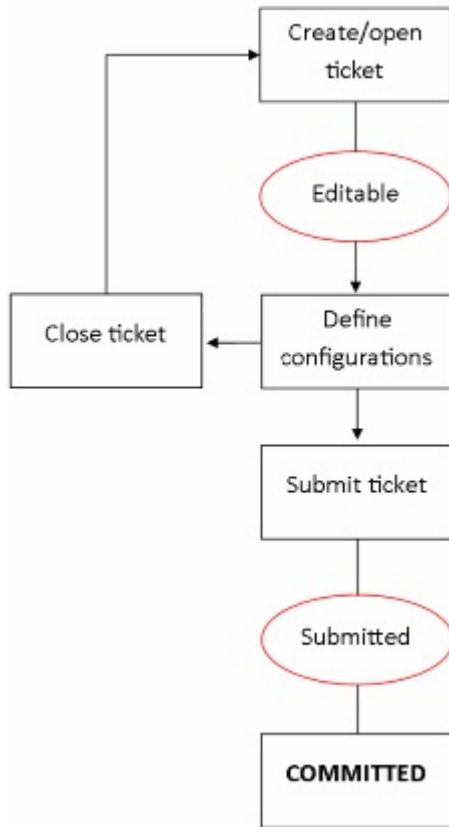


図 2: アプルーバを使用しないアクティビティ ワークフロー

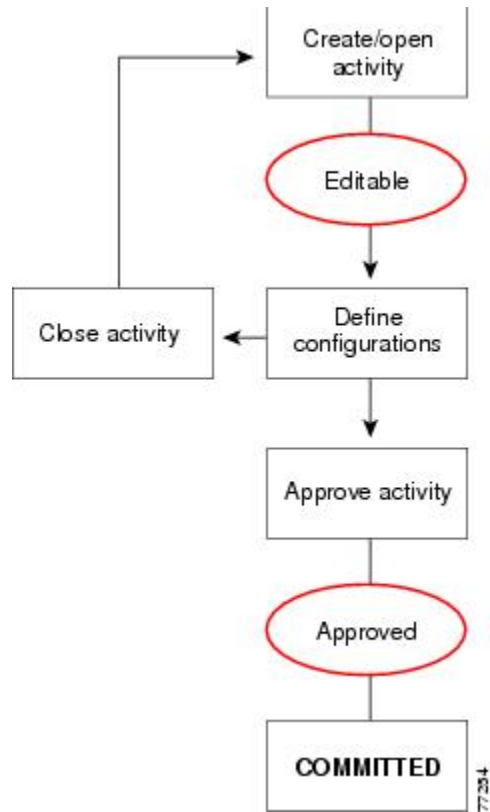
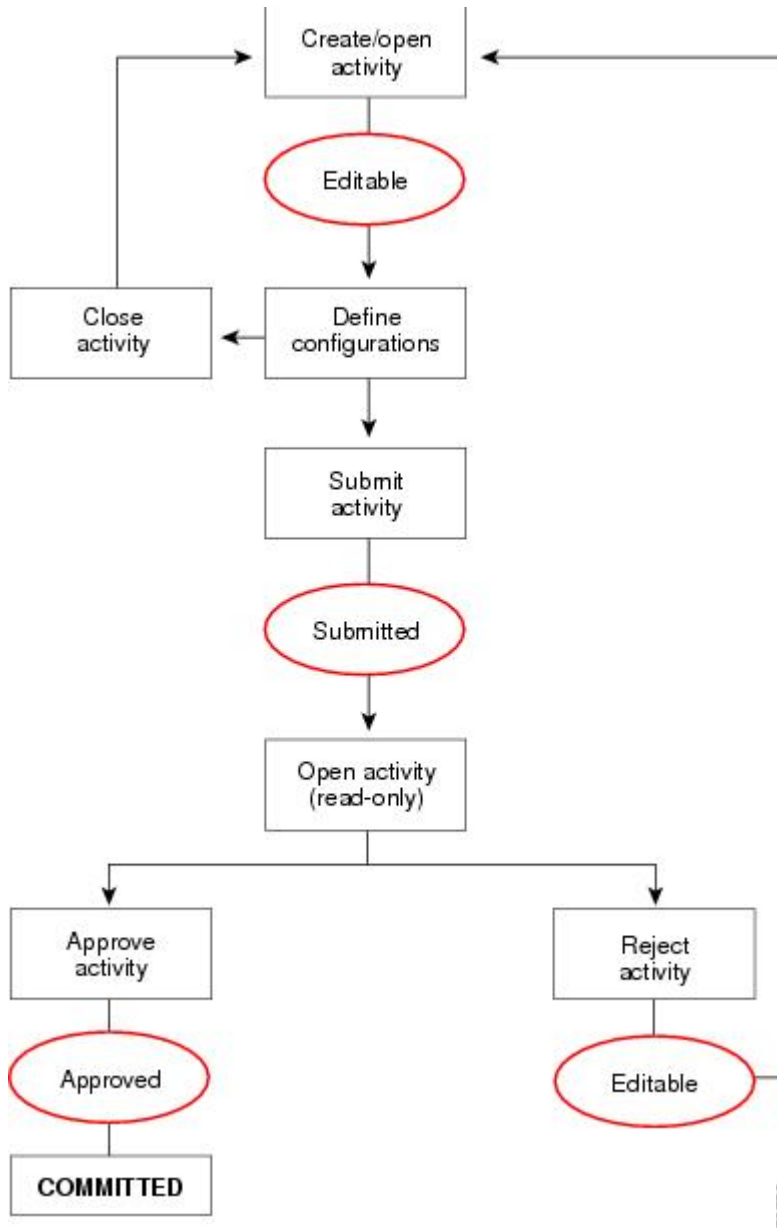


図 3: アプルーバを使用するアクティビティ ワークフロー



73772

アクティビティ/チケットの操作

ここでは、アクティビティおよび設定セッションを使用する際に役立つ情報を提供します。

- [Workflow モードでのアクティビティ機能へのアクセス](#) (10 ページ)
- [Workflow 以外のモードでのチケット機能へのアクセス](#) (12 ページ)
- [アクティビティ/チケットの作成](#) (17 ページ)

- [アクティビティ/チケットを開く](#) (19 ページ)
- [アクティビティ/チケットを閉じる](#) (20 ページ)
- [変更レポートの表示](#) (21 ページ)
- [アクティビティ/チケットの検証](#) (24 ページ)
- [承認のためのアクティビティの送信 \(アクティビティ アプルーバを使用する Workflow モード\)](#) (26 ページ)
- [アクティビティの承認または拒否 \(Workflow モード\)](#) (27 ページ)
- [アクティビティ/チケットの破棄](#) (29 ページ)
- [アクティビティ/チケットのステータスおよび履歴の表示](#) (31 ページ)

Workflow モードでのアクティビティ機能へのアクセス


Workflow モードでは、次の方法でアクティビティ管理機能にアクセスできます。







- **[管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)]** を選択します。[Activity Manager] ウィンドウに、既存のアクティビティとその状態が一覧表示されます。このウィンドウから、新しいアクティビティを作成したり、既存のアクティビティの開閉、送信、承認、拒否、または廃棄を行ったりできます。詳細については、[アクティビティ/チケットマネージャ ウィンドウ](#) (13 ページ) を参照してください。
- メインツールバーの [Activities] 部分にあるボタンをクリックするか、[Activities] メニューで対応するコマンドを選択します。ボタンまたはコマンドがアクティブになるかどうかは、ユーザの権限、アクティビティの状態、およびワークフローでアプルーバを使用しているかどうかによって決まります。次の表に、ボタン、コマンド、およびそれを使用できる条件について説明します。




- (注) アクティビティが開いている場合、Configuration Manager インターフェイスの右上隅にある [グローバル検索 (Global Search)] の上にアクティビティ名が表示されます。アクティビティ名をクリックすると、[Activity Manager] ウィンドウが開きます。

表 2: Workflow モードがイネーブルになっているときの [Activities] ツールバーのボタンおよびコマンド

ボタン	[Activities] メニュー コマンド	説明
	New Activity	アクティビティを作成します。

ボタン	[Activities] メニュー コマンド	説明
	Open Activity	<p>アクティビティを開きます。アクティビティは、[Edit] または [Submitted] 状態にある場合に開くことができます。</p> <p>送信済みのアクティビティを開くには、そのアクティビティで行った変更を承認または拒否するためのユーザ権限を持っている必要があります。詳細については、Cisco Security Manager インストレーションガイド [英語] を参照してください。</p>
	Close Activity	<p>アクティビティが開いている間に行われた変更をすべて保存し、アクティビティを閉じます。</p> <p>アクティビティは、[Edit Open] または [Submit Open] 状態のときに閉じることができます。</p>
	変更の表示	<p>アクティビティで行われたすべての変更を評価し、PDF 形式のアクティビティ変更レポートを別のウィンドウ内に生成します。詳細については、変更レポートの表示 (21 ページ) を参照してください。</p>
	Validate Activity	<p>現在のアクティビティ内で変更されたポリシーの整合性を検証します。アクティビティを検証することにより、ポリシー変更の際の設定エラーをチェックできます。</p>
	Submit Activity	<p>アクティビティアプルーバを使用する Workflow モードで、アクティビティを承認のために送信します。アクティビティは、[Edit] または [Edit Open] 状態にある場合に送信できます。</p>
	Approve Activity	<p>アクティビティ内で提案された変更を承認します。</p> <p>アクティビティは、アクティビティアプルーバを使用している場合は [Submitted] 状態のときに承認できます。アプルーバを使用していない場合は [Edit] または [Edit Open] 状態のときに承認できます。アクティビティ内で提案された変更を受け入れるためのユーザ権限を持っている必要があります。詳細については、Cisco Security Manager インストレーションガイド [英語] を参照してください。</p>
	Reject Activity	<p>アクティビティアプルーバを使用する Workflow モードで、アクティビティ内で提案された変更を拒否します。</p> <p>アクティビティは、[Submitted] または [Submitted Open] 状態のときに拒否できます。アクティビティ内で提案された変更を拒否するためのユーザ権限を持っている必要があります。詳細については、Cisco Security Manager インストレーションガイド [英語] を参照してください。</p>

ボタン	[Activities] メニュー コマンド	説明
	Discard Activity	選択したアクティビティを廃棄します。アクティビティは廃棄され、[Tools] > [Security Manager Administration] > [Workflow] で設定したアクティビティの経過時間を超えるとシステムから削除されます。アクティビティが実際にシステムから削除されるまでは、アクティビティ状態は [Discarded] として表示されます。

Workflow 以外のモードでのチケット機能へのアクセス



チケット管理が有効になっている Workflow 以外のモードでは、次の方法でチケット管理機能にアクセスできます。






- [管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。[チケットマネージャ (Ticket Manager)] ウィンドウには、既存のチケットとチケットの状態のリストが含まれています。このウィンドウから、新しいチケットを作成したり、既存のチケットを開閉、送信、または破棄したりできます。詳細については、[アクティビティ/チケットマネージャ ウィンドウ \(13 ページ\)](#) を参照してください。
- [メイン (Main)] ツールバーの [チケット (Tickets)] 部分にあるボタンをクリックするか、[チケット (Tickets)] メニューで対応するコマンドを選択します。ボタンやコマンドのアクティブ状態は、ユーザーのアクセス許可とチケットの状態によって異なります。次の表に、ボタン、コマンド、およびそれを使用できる条件について説明します。



(注) チケットが開いている場合、チケット ID は、Configuration Manager インターフェイスの右上隅にある [グローバル検索 (Global Search)] フィールドの上に表示されます。チケット ID をクリックして、[チケットマネージャ (Ticket Manager)] ウィンドウを開くことができます。

表 3: Workflow 以外のモードでチケット管理が有効になっている場合の [チケットツールバー (Tickets Tool Bar)] のボタンとコマンド

ボタン	[Activities] メニュー コマンド	説明
	新しいチケット (New Ticket)	チケットを作成します。
	チケットを開く (Open Ticket)	チケットを開きます。[編集 (Edit)] 状態のチケットを開くことができます。

ボタン	[Activities] メニューコマンド	説明
	チケットを閉じる (Close Ticket)	チケットが開いている間に行われた変更をすべて保存し、チケットを閉じます。 [編集オープン (Edit Open)]状態のチケットを閉じることができます。
	変更の表示	チケットで行われたすべての変更を評価し、PDF形式のチケット変更レポートを別のウィンドウ内に生成します。詳細については、 変更レポートの表示 (21 ページ) を参照してください。
	チケットの検証 (Validate Ticket)	現在のチケット内で変更されたポリシーの整合性を検証します。チケットを検証することで、ポリシー変更の際の設定エラーをチェックできます。
	チケットの送信 (Submit Ticket)	チケットを送信します。チケットを送信すると、提案された変更がデータベースに保存されます。チケットに関連付けられたデバイスはロック解除されるため、ポリシー定義に含めたり、他のチケットで変更したりできます。チケットは、[編集 (Edit)]状態または[編集オープン (Edit Open)]状態にある場合に送信できます。
	チケットを破棄 (Discard Ticket)	選択したチケットを破棄します。チケットは破棄され、[ツール (Tools)]>[Cisco Security Manager管理 (Security Manager Administration)]>[チケット管理 (Ticket Management)]で設定したチケットの経過時間を超えるとシステムから削除されます。チケットが実際にシステムから削除されるまで、チケットの状態は[破棄 (Discarded)]と表示されます。詳細については、 [チケット管理 (Ticket Management)] ページを参照してください。

アクティビティ/チケットマネージャウィンドウ

アクティビティ管理とチケット管理は非常によく似たプロセスです。アクティビティとチケットの主な違いは、チケットは承認プロセスを使用しないことです。さまざまな動作モードの比較については、[Workflow モードの比較](#)を参照してください。

- **Activity Manager** : [Activity Manager] ウィンドウを使用して、アクティビティの作成と管理、およびアクティビティのステータスと履歴の表示を行います。上半分のペインに、作成されたアクティビティが一覧表示されます。アクティビティを選択すると、下半分のペインにそのアクティビティの詳細と履歴が表示されます。
- **Ticket Manager** : [Ticket Manager] ウィンドウを使用して、チケットの作成と管理、およびチケットのステータスと履歴を表示します。上半分のペインに、作成されたチケットが一覧表示されます。

覧表示されます。チケットを選択すると、下半分のペインにそのチケットの詳細と履歴が表示されます。



- (注) [Activity Manager] ウィンドウは、Workflow モードで作業している場合だけ使用可能です。[Ticket Manager] ウィンドウは、チケット管理が有効になっている Workflow 以外のモードを運用している場合にのみ使用できます。チケット管理が有効でない Workflow 以外のモードでは、Security Manager によって自動的かつ透過的にアクティビティが管理されます。モードの選択の詳細については、[ワークフローモードの変更](#)を参照してください。

ナビゲーションパス

- チケット管理が有効になっている Workflow 以外のモードでは、[メイン (Main)] ツールバーの [Ticket Manager] ボタンをクリックするか、[管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。
- Workflow モードでは、[メイン (Main)] ツールバーで [Activity Manager] ボタンをクリックするか、[管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。

フィールドリファレンス

表 4: アクティビティ/チケットマネージャウィンドウ

要素	説明
*	未承認の変更がある (編集、編集がオープン、または送信済みの状態) アクティビティ、または未送信の変更がある (編集または編集がオープン) の状態) チケットには、簡単に識別できるようにフラグが付けられます。
アクティビティ チケット (Ticket)	アクティビティの名前またはチケットの ID。Workflow モードでチケット管理が有効になっている場合、両方の列が表示されます。 チケット管理が有効になっている場合、チケット ID をクリックしてチケットの詳細を表示できます。外部チケット管理システムへのリンクが設定されている場合は、チケットの詳細からそのシステムに移動することもできます ([チケット管理 (Ticket Management)] ページを参照)。
最終変更日 (Last Modified)	アクティビティ/チケットが最後に変更された日時。
状態	アクティビティ/チケットの状態。状態のリストについては、 アクティビティ/チケットの状態について (5 ページ) を参照してください。
ユーザー (User)	アクティビティ/チケットの状態を最後に変更したユーザーの名前。

要素	説明
直前のアクション	アクティビティ/チケットに対して実行された最新のアクション。
[Create] ボタン	このボタンをクリックすると、新しいアクティビティまたはチケットが作成され、ポリシーの作成や変更、またはデバイスへのポリシーの割り当てができるようになります。詳細については、 アクティビティ/チケットの作成 (17 ページ) を参照してください。
[Open] ボタン	このボタンをクリックすると、選択したアクティビティ/チケットが開き、アクティビティ/チケット内から変更（ポリシーの定義や割り当てなど）が取り込まれます。アクティビティは、[Edit] または [Submitted] 状態にある場合に開くことができます。送信済みのアクティビティは、読み取り専用で開かれます。[編集 (Edit)] 状態のチケットを開くことができます。詳細については、 アクティビティ/チケットを開く (19 ページ) を参照してください。
[Close] ボタン	後でポリシーの設定を続行する場合は、このボタンをクリックして、選択したアクティビティ/チケットを閉じます。詳細については、 アクティビティ/チケットを閉じる (20 ページ) を参照してください。
[Validate] ボタン	このボタンをクリックして、選択したアクティビティ/チケットを作成してから現在の時刻までに行った変更を検証します。アクティビティ/チケットを検証すると、ポリシーの整合性と展開可能性がチェックされ、エラーが検出された場合は詳細なエラー情報が表示されます。詳細については、 アクティビティ/チケットの検証 (24 ページ) を参照してください。
[Submit] ボタン [Submit] ボタン	<p>アクティビティアプルーバを使用する Workflow モードで、このボタンをクリックして、選択したアクティビティを送信します。アクティビティを送信すると、指定したアプルーバに、アクティビティの確認の準備ができたという通知が送信されます。アクティビティは、[Edit] または [Edit Open] 状態にある場合に送信できます。</p> <p>チケット管理が有効になっている Workflow 以外のモードでは、このボタンをクリックすると、選択したチケットが送信されます。チケットを送信すると、提案された変更がデータベースに保存されます。チケットに関連付けられたデバイスはロック解除されるため、ポリシー定義に含めたり、他のチケットで変更したりできます。チケットは、[編集 (Edit)] 状態または [編集オープン (Edit Open)] 状態にある場合に送信できます。</p> <p>コメントの入力を求められます。詳細については、承認のためのアクティビティの送信 (アクティビティアプルーバを使用する Workflow モード) (26 ページ) を参照してください。</p>

要素	説明
[Approve] ボタン (Activity Manager のみ)	<p>このボタンをクリックすると、選択したアクティビティが承認され、提案された変更がデータベースに保存されます。アクティビティに関連付けられたデバイスはロック解除されるため、ポリシー定義に含めたり、他のアクティビティで変更したりできます。アクティビティを承認するための適切なユーザ権限を持っている必要があります。</p> <p>アプルーバを使用しない Workflow モードでは、各自のアクティビティを [Edit] 状態のときに承認できます。アプルーバを使用する Workflow モードでは、アクティビティを送信する必要があります。アプルーバがアクティビティを承認できるのは、アクティビティが [Submitted] 状態のときだけです。</p> <p>承認コメントの入力を求められます。詳細については、アクティビティの承認または拒否 (Workflow モード) (27 ページ) を参照してください。</p>
[Reject] ボタン (Activity Manager のみ)	<p>アクティビティアプルーバを使用する Workflow モードで、このボタンをクリックして、選択したアクティビティで提案された変更を拒否します。アクティビティを拒否するための適切なユーザ権限を持っている必要があります。アクティビティが拒否された場合、送信者はアクティビティの変更を続行できます。アクティビティに関連付けられたデバイスはロック解除されないため、ポリシー定義に含めたり、他のアクティビティで変更したりできません。アクティビティは、[Submitted] または [Submitted Open] 状態のときだけ拒否できます。</p> <p>拒否コメントの入力を求められます。詳細については、アクティビティの承認または拒否 (Workflow モード) (27 ページ) を参照してください。</p>
[Discard] ボタン	<p>このボタンをクリックして、選択したアクティビティ/チケットを破棄します。このアクティビティ/チケットと関連付けられているデバイスはロック解除され、他のアクティビティ/チケットで使用できるようになります。複数のアクティビティ/チケットを同時に破棄できます。</p> <p>コメントの入力を求められます。詳細については、アクティビティ/チケットの破棄 (29 ページ) を参照してください。</p> <p>廃棄されたアクティビティは、Security Manager の Workflow 設定で定義されている設定に従って、システムから削除されます。アクティビティがシステムから削除されるまでは、アクティビティ状態は [Discarded] として表示されます。詳細については、[Workflow] ページ を参照してください。</p> <p>廃棄されたチケットは、Security Manager のチケット管理設定で定義されている設定に従って、システムから削除されます。チケットがシステムから削除されるまで、チケットの状態は [破棄 (Discarded)] と表示されます。詳細については、[チケット管理 (Ticket Management)] ページ を参照してください。</p>

要素	説明
変更の表示	このボタンをクリックして、選択したアクティビティ/チケットのレポートをPDF形式で生成します。アクティビティ/チケットが閉じている場合、このボタンはグレー表示されます。詳細については、 変更レポートの表示 (21 ページ) を参照してください。
[Refresh] ボタン	このボタンをクリックして、ウィンドウに表示されている情報をリフレッシュします。
[Details] タブ	<p>選択したアクティビティ/チケットの詳細情報が表示されます。詳細には、テーブルから繰り返される情報の他に、次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Activity ID] : アクティビティを作成したときに Security Manager によって割り当てられた識別番号。 • [チケットID (TicketID)] : チケットの作成時に入力された識別番号。チケットIDの横にある [チケットの編集 (Edit Ticket)] ボタンをクリックして、チケットIDを編集できます。 • [作成日時 (Created)] : アクティビティ/チケットが作成された日時。 • [最終変更日 (Last Modified)] : アクティビティ/チケットが最後に変更された日時。 • [説明 (Description)] : アクティビティ/チケットが作成されたときに入力された説明。 • [コメント履歴 (Comments History)] : このアクティビティ/チケットに入力されたコメントの履歴を表示します。コメントを入力したユーザーと、コメントが入力された日時が表示されます。コメント履歴テーブルの下にあるボタンを使用すると、コメントを追加および編集できます。
[履歴 (History)] タブ	<p>選択したアクティビティ/チケットに行われた変更のログが表示されます。ログの内容は、状態の変更、変更を行ったユーザ、変更日時 (Security Manager サーバの時間が基準) 、およびユーザが入力した変更を説明するコメントです。</p>

アクティビティ/チケットの作成

Workflow モードでは、ポリシーを作成する前、またはデバイスにポリシーを割り当てる前に、アクティビティを作成する必要があります。Workflow 以外のモードでは、チケット管理が有効になっている場合、ポリシーを作成または変更するかデバイスにポリシーを割り当てる前に、チケットを作成する必要があります。



ヒント Workflow 以外のモードでチケットが無効になっている場合は、必要に応じてアクティビティが自動的に作成されます。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットを開く \(19 ページ\)](#)

ステップ 1 次のいずれかを実行します。

アクティビティの場合：

- アクティビティツールバーで [アクティビティの作成 (Create Activity)] ボタンをクリックします。
- [アクティビティ (Activities)] > [新規アクティビティ (New Activity)] を選択します。
- [Activity Manager] ウィンドウで [作成 (Create)] をクリックします。

チケットの場合：

- チケットツールバーで [チケットの作成 (Create Ticket)] ボタンをクリックします。
- [チケット (Tickets)] > [新規チケット (New Ticket)] を選択します。
- [Ticket Manager] ウィンドウで [作成 (Create)] をクリックします。

[アクティビティ/チケットの作成 (Create Activity/Ticket)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 [アクティビティ/チケットの作成 (Create Activity/Ticket)] ダイアログボックスで、アクティビティの名前を入力するか、システムにより生成された名前を保持します。デフォルトの名前には、ユーザー名、日付、およびアクティビティ/チケットの作成時刻が含まれます。また、アクティビティ/チケットを説明するコメントも入力できます。

[チケットの管理 (Ticket Management)] では、チケット ID と外部チケット管理システムとのリンクがサポートされます。詳細については、[\[チケット管理 \(Ticket Management\)\] ページ](#)を参照してください。

ヒント カンマを使用して、複数のチケット ID を区切ることができます。

ステップ 3 [OK] をクリック

アクティビティ/チケットが [Activity Manager]/[Ticket Manager] ウィンドウにリストされます。詳細については、[アクティビティ/チケットマネージャ ウィンドウ \(13 ページ\)](#) を参照してください。

[必要なアクティビティ/チケットへの応答 (Responding to the Activity/Ticket Required)] ダイアログボックス

Workflow モードでは、ポリシーを作成または変更する前に、アクティビティを作成するか開く必要があります。Workflow 以外のモードで、チケット管理が有効になっている場合は、ポリシーを作成または変更する前にチケットを作成するか開く必要があります。アクティビティ/チケットを作成しても開いてもない状態で、アクティビティまたはチケットを必要とするアクションを実行しようとする、[必要なアクティビティ/チケット (Activity/Ticket Required)] ダイアログボックスで、それを実行するよう促されます。

次のオプションの中から選択できます。

- [新規アクティビティを作成 (Create a new activity)] : 全く新しいアクティビティ/チケットを作成し、アクティビティ名またはチケット ID を指定し、任意でアクティビティ/チケットの目的の説明を入力します。デフォルトのアクティビティ/チケットの名前には、ユーザー名、日付、およびアクティビティ/チケットの作成時刻が含まれます。
- [既存のアクティビティ/チケットを開く (Open an existing activity/ticket)] : [アクティビティ/チケット (Activity/Ticket)] リストから選択したアクティビティ/チケットを開きます。このオプションは、編集状態の使用可能なアクティビティ/チケットがある場合にだけ表示されます。

関連項目

- [アクティビティ/チケットの作成 \(17 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットの状態について \(5 ページ\)](#)

アクティビティ/チケットを開く

Workflow モードでは、他のユーザが開いていない既存のアクティビティを開くことができます。[Edit] 状態の既存のアクティビティを開いて、さらにポリシーを変更したり、[Submitted] 状態の既存のアクティビティを開いて、提案されたポリシー変更を承認または拒否する前に確認したりできます (適切な権限を持っているユーザが、アプルーバを使用する Workflow モードで作業している場合)。

[編集 (Edit)] 状態のアクティビティは変更できますが、[送信済み (Submitted)] 状態のアクティビティは表示しかできません。

Workflow 以外のモードでは、チケット管理が有効になっている場合、他のチケットが開かれていないときに、既存のチケットを開いてポリシーをさらに変更できます。

アクティビティ/チケットを開くには、次のいずれかを実行します。

- アクティビティの場合 :
 - アクティビティツールバーで [開く (Open)] ボタンをクリックするか、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティを開く (Open Activity)] を選択します。[Openable Activities] ダイアログボックスに、開くことができるすべてのアクティビティが一覧

表示されます。また、アクティビティの名前、その状態、およびアクティビティを作成したユーザ名も表示されます。開くアクティビティを選択し、[OK] をクリックします。

- [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウから、開くアクティビティを選択し、[開く (Open)] をクリックします。

• チケットの場合 :

- チケットツールバーの[開く (Open)] ボタンをクリックするか、[チケット (Tickets)] > [チケットを開く (Open Ticket)] を選択します。[開くことができるチケット (Openable Tickets)] ダイアログボックスには、チケット ID、状態、チケット作成者のユーザ名などの情報を含めて、開くことができるすべてのチケットが一覧表示されます。開くチケットを選択し、[OK] をクリックします。
- [管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。[Ticket Manager] ウィンドウから、開くチケットを選択し、[開く (Open)] をクリックします。



ヒント Workflow 以外のモードで、チケット管理が無効になっている場合、必要に応じて（まだ送信していない）直前の設定セッションが開かれます。アクティビティを必要とするアクションを次に実行するときに、新しいアクティビティが作成されます。



(注) Workflow モードおよびチケット管理が有効になっている非 Workflow モードでは、Security Manager を起動すると、アクティビティ/チケットを開くか作成するように求められます。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)

アクティビティ/チケットを閉じる

あとで引き続きポリシーを設定できるように、アクティビティを承認なしで（または承認のために送信せずに）閉じる、またはチケットを送信せずに閉じることができます。

管理者権限を持つユーザは、別のユーザが開いたアクティビティ/チケットを閉じることができます。

開いているアクティビティ/チケットを閉じるには、次のいずれかを実行します。

- アクティビティの場合 :
 - アクティビティツールバーで [閉じる (Close)] ボタンをクリックします。

- [アクティビティ (Activities)] > [アクティビティを閉じる (Close Activity)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。 [Activity Manager] ウィンドウから、[閉じる (Close)] をクリックします。
- チケットの場合：
- チケットツールバーで [閉じる (Close)] ボタンをクリックします。
 - [チケット (Tickets)] > [チケットを閉じる (Close Ticket)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。 [Ticket Manager] ウィンドウから、[閉じる (Close)] をクリックします。



ヒント チケット管理が無効の Workflow 以外のモードでは、ログアウトするたびに設定セッションが閉じます。次回ログインすると、同じセッションが再び開きます。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)

変更レポートの表示

インターフェイス内には、変更レポートを開ける場所が多数あります。通常、レポートを生成するためのボタンまたはコマンドは、[変更の表示 (View Changes)] です。これらの変更レポートは、Workflow モードか Workflow 以外のモードのいずれを使用しているかにかかわらず、ポリシーおよびポリシーオブジェクトの変更や、操作が実行されたデバイス、アクティビティ/チケット内で作成されたデバイスに関する詳細情報を提供します。

変更レポートは、Adobe Acrobat (PDF) 形式です。[bookmarks] タブを含むすべての Acrobat 機能を使用して、レポートを表示できます。

デバイスを検出した場合、またはデバイス上のポリシーを再検出した場合、同じアクティビティ/チケット内でそのデバイスに対してそれ以降に実行されたポリシー変更は、アクティビティ変更レポートに一覧表示されません。これは、別のデバイスから複製したデバイスについても当てはまります。

変更レポートを表示するための方法を次に示します。

- チケット管理のある Workflow 以外モード：
 - [チケット (Tickets)] > [変更の表示 (View Changes)] を選択するか、ツールバーで [変更の表示 (View Changes)] ボタンをクリックすると、現在開いているチケット内で行われた変更が表示されます。


- [チケットマネージャ (Ticket Manager)] ウィンドウでチケットを強調表示し、[変更の表示 (View Changes)] をクリックして、そのチケットに行われた変更を表示します。
- チケット管理のない Workflow 以外モード：
 - [ファイル (File)] > [変更の表示 (View Changes)] を選択すると、現在の設定セッション中に行われた変更が表示されます。
 - [管理 (Manage)] > [レポートの変更 (Change Reports)] を選択すると、以前のセッション中に行われた変更が表示されます (これらのセッションは、変更を送信するか廃棄すると閉じます)。[レポートの変更 (Change Report)] ウィンドウから設定セッションを選択し、[変更の表示 (View Changes)] をクリックします ([チケット管理が無効になっている Workflow 以外モードでの変更レポートの選択 \(24 ページ\)](#) を参照。)
- Workflow モード：
 - [アクティビティ (Activities)] > [変更の表示 (View Changes)] を選択するか、ツールバーで [変更の表示 (View Changes)] ボタンをクリックすると、現在開いているアクティビティ内で行われた変更が表示されます。
 - [アクティビティマネージャ (Activity Manager)] ウィンドウでアクティビティを強調表示し、[変更の表示 (View Changes)] をクリックすると、そのアクティビティ内で行われた変更が表示されます。
- すべてのモードで、展開ジョブを作成するときに、さまざまなダイアログボックスから変更を表示できます。



(注) アクティビティ レポートが確実に開くように、ポップアップブロッカ アプリケーションが実行されていればそれをディセーブルにする必要があります。

次の図に、アクティビティ レポートの例を示します。

図 4 : Activity Change Report



Activity Change Report

User: celia
 Session started on: 26-Oct-2006 00:49:16
 Current state: Edit Open
 Report created on: 26-Oct-2006 18:14:22

Devices

- router2600
 - Policy Objects Override
 - InterfaceRole

Operation	Category ID	Name Patterns	Comment	Patterns	Name
Add	None	Ethernet1, Dialer0, Serial0, Async1, Serial0/0, Outside	External interfaces	Ethernet1, Dialer0, Serial0, Async1, Serial0/0, Outside, Ethernet1, Dialer0, Serial0, Async1, Serial0/0, Outside	External

変更レポートには、次の要素が含まれます。

- [Activity name/Ticket ID] : アクティビティの名前 (名前がない場合は、ユーザおよびセッションの開始日時) またはチケット ID。
- [Created by] : アクティビティ/チケットを作成したユーザ名、および日時。
- [Current state] : アクティビティの現在の状態。
- [Report created on] : レポートが作成された日時。
- [Devices section] : アクティビティ/チケット内で操作が実行されたデバイス (つまり、追加、変更、または削除されたデバイス) の要約。ローカルポリシーに対する変更は、ここに表示されます。

レポートのこのセクションおよび他のセクションの中の変更は、区別しやすいように色分けされます。

- 緑 : 新しく挿入された項目を示します。
- 赤 : 削除された項目、または変更された項目の古い値を示します。
- 青 : 変更された項目の新しい値を示します。
- [Shared Policies] セクション : ここには、すべての共有ポリシーに対する変更が表示されません。
- [Policy Bundles] : すべてのポリシーバンドルへの変更がここに表示されます。
- [Policy Objects] : ここには、すべてのポリシーオブジェクトに対する変更が表示されます。
- [VPN] : 新たに検出された VPN と削除された VPN トポロジを含め、VPN トポロジとポリシーに対する変更はここに表示されます。

チケット管理が無効になっている Workflow 以外のモードでの変更レポートの選択

チケット管理が無効になっている Workflow 以外のモードでは、[管理 (Manage)] > [変更レポート (Change Reports)] を選択して、[変更レポート (Change Report)] ダイアログボックスでセッションを選択することにより、閉じている設定セッションの変更レポートを表示できます。

チケット管理が無効になっている Workflow 以外のモードでは、変更を送信または廃棄すると、設定セッションが完了したと見なされます。[Change Report] ダイアログボックスに、閉じているすべてのセッションが一覧表示され、セッションが閉じられた日時、セッションを閉じたアクション (送信または廃棄)、およびそのセッションに関連付けられているユーザー名が表示されます。これらのセッションは、Workflow モードでのアクティビティに相当します。セッションを選択し、[変更の表示 (View Changes)] をクリックすると、レポートが表示されます。このレポートの解釈については、[変更レポートの表示 \(21 ページ\)](#) を参照してください。



ヒント 現在の設定セッションのレポートを表示するには、このダイアログボックスを閉じ、[ファイル (File)] > [変更の表示 (View Changes)] を選択します。

アクティビティ/チケットの検証

Workflow モードでは、アクティビティを承認のために送信すると、Security Manager によってアクティビティが検証されます。また、アクティビティ内でポリシーの作成中および変更中はいつでも、アクティビティを検証できます。アクティビティが送信されたあとも、検証レポートはスタティックなままです。

Workflow 以外のモードでは、ポリシーをデータベースに送信した場合、ポリシーの展開を試行した場合、またはポリシーを検証した場合に、Security Manager によってポリシーが検証されます。検証プロセスでは、変更が送信または展開されるまでに行われたポリシーの変更についてレポートされます。

検証プロセスでは、次の領域がチェックされます。エラーがあった場合は、検証結果の詳細な要約を表示できます。

- ポリシーの整合性：解決不可能な参照 (欠落しているオブジェクト、未解決のインターフェイス ロール、必須設定のオーバーライドなど) がないこと。
- ポリシーの展開可能性：ポリシーを適切に CLI コマンドに変換できるように、ターゲットデバイスでプラットフォーム、オペレーティング システム、および設定済みの機能がサポートされていること。

ポリシーに、特定のデバイス タイプまたはオペレーション システム バージョンを必要とするオプションが含まれている場合は、サポートされていないデバイスに関する検証警告が表示されますが、Security Manager は、サポートされていないデバイスに対して関連コマンドを生成しません。このため、特定のデバイスに限定されたポリシーを作成せずに、広範囲のデバイスに適用されるポリシーを作成できます。

- FlexConfig の整合性：破損した FlexConfig オブジェクトがないこと。破損したオブジェクトが見つかり、破損した FlexConfig オブジェクトのリストとともに警告が表示されます。
- FlexConfig の構文：構文エラーが見つかり、影響を受ける FlexConfig とその構文エラーとともに警告が表示されます。
- FlexConfig オブジェクト参照：すべてのオブジェクト参照が解決可能であること。FlexConfig オブジェクトが存在しないオブジェクトを参照している場合、存在しないオブジェクトのリストとともに警告が表示されます。

関連項目

- [承認のためのアクティビティの送信（アクティビティ アプルーバを使用する Workflow モード）](#)（26 ページ）
- [Workflow 以外のモードでの設定の展開](#)

ステップ 1 次のいずれかを実行します。

- ワークフロー モードで、次の手順を実行します。
 - アクティビティを開いて、アクティビティツールバーの[検証 (Validate)] ボタンをクリックするか、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの検証 (Validate Activity)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウからアクティビティを選択し、[検証 (Validate)] をクリックします。
- チケット管理が有効になっている非ワークフローモードで、次の手順を実行します。
 - チケットを開き、チケットツールバーの [保存された変更の検証 (Validate Saved Changes)] ボタンをクリックするか、[チケット (Tickets)] > [チケットの検証 (Validate Ticket)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。[Ticket Manager] ウィンドウでチケットを選択し、[検証 (Validate)] をクリックします。
- チケット管理が有効になっている非ワークフローモードで、[ファイル (File)] > [検証 (Validate)] を選択するか、ポリシーのプレビューまたは展開を試行します。

Security Manager によって検証が実行され、検証結果が要約された情報メッセージダイアログボックスが開きます。エラーがない場合、検証は成功です。エラーまたは警告がある場合は、[詳細設定 (Details)] をクリックして [検証 (Validation)] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、エラーの詳細情報を確認できます。

ステップ 2 エラーを評価して、エラーの修正方法を決定します。

[Validation] ダイアログボックスでは、エラーと警告が次の 2 つの方法で編成され、別々のタブに表示されます。

- [Errors] タブ：[Errors] タブでは、検証の問題がエラーのタイプに基づいて編成されます。各エラーは、影響を受けるデバイスの数およびエラーの重大度を示しています。

上半分のペインでエラーを選択すると、左下のペインに、エラーのあるデバイス（およびデバイス タイプ）のリストが表示されます。右下のペインには、エラー、エラーの原因、および修正方法が表示されません。

- [Devices] タブ：[Devices] タブでは、検証の問題がデバイスに基づいて編成されます。各デバイスは、デバイスのエラーや警告の数とタイプ、およびデバイス タイプを示しています。デバイス ステータスは、デバイス設定の最悪の問題（エラーまたは警告）を示しています。

上半分のペインでデバイスを選択すると、左下のペインにそのデバイスのエラーが一覧表示されます。エラーを選択すると、右下のペインにエラー、エラーの原因、および修正方法が表示されます。

アクティビティを送信する前に、エラーを修正する必要があります。Security Manager では、検証エラーのあるアクティビティの送信はできません。

(注) (エラーとは異なり) 検証警告があっても、アクティビティの承認または展開はできます。

承認のためのアクティビティの送信（アクティビティ アプルーバを使用する Workflow モード）

アクティビティ アプルーバを使用する Workflow モードでは、承認のためにアクティビティを送信する必要があります。アクティビティを送信すると、アクティビティの整合性と展開可能性が検証されます。検証プロセスおよびレポートの詳細については、[アクティビティ/チケットの検証](#)（24 ページ）を参照してください。

また、アクティビティが閉じられて、アクティビティの承認権限を持つユーザがそれを開くことができるようになります。アクティビティが承認されると、その設定が Security Manager データベースにコミットされ、設定をデバイスに展開できるようになります。

アクティビティを送信すると、Security Manager によって、関連するアプルーバに、アクティビティに承認が必要であることを通知するための電子メールが送信されます。

アクティビティ アプルーバを使用しない Workflow モードでは、アクティビティを送信する必要はありません（実際に、アクティビティの送信はできません）。アクティビティを自分で承認できます。アクティビティ承認設定の変更方法、および通知用の電子メールアドレスの設定方法の詳細については、[\[Workflow\]](#) ページを参照してください。

関連項目

- [アクティビティについて](#)（1 ページ）
- [アクティビティ/チケットを開く](#)（19 ページ）
- [アクティビティ/チケットの状態について](#)（5 ページ）
- [電子メール通知用の SMTP サーバおよびデフォルト アドレスの設定](#)

ステップ 1 次のいずれかを実行します。

- アクティビティを開いて、アクティビティツールバーの[アクティビティの送信 (Submit Activity)] ボタンをクリックするか、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの送信 (Submit Activity)] を選択します。
- [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウからアクティビティを選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。

[Submit Activity] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 2 [Submit Activity] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します。

- [アプルーバ (Approver)] : デフォルトのアドレスが適切でない場合に、アクティビティを承認するユーザの電子メールアドレスを入力します。このユーザが、送信の通知を受け取ります。

デフォルトの電子メールアドレスは、[Tools] > [Security Manager Administration] > [Workflow] で設定します。

- [コメント (Comment)] : アプルーバがアクティビティを評価する際に参考になるコメントを入力します。
- [送信者 (Submitter)] : デフォルトのアドレスが適切でない場合に、承認要求を送信するユーザの電子メールアドレスを入力します。このフィールドには、Security Manager へのログインに使用したユーザ名に関連付けられている電子メールアドレスが最初から埋め込まれています。アクティビティ状態変更の通知は、このアドレスに送信されます。

必要に応じて、[変更を表示 (View Changes)] ボタンをクリックして、アクティビティ内で行われた変更のレポートを PDF 形式で表示します。詳細については、[変更レポートの表示 \(21 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 [OK] をクリックします。[Activity Manager] ウィンドウでアクティビティのステータスが [Submitted] に変わり、通知が送信されます。

(注) 電子メールを送信できない場合は、Security Manager によって警告されます。この場合は、アプルーバに直接連絡する必要があります。

アクティビティの承認または拒否 (Workflow モード)

アクティビティ内の変更をデータベースにコミットする前に、アクティビティを承認する必要があります。アクティビティの承認権限を持っている場合は、アクティビティを開いて、ポリシーおよびポリシー割り当てを確認してから、アクティビティを承認または拒否できます。

アプルーバを使用しない Workflow モードでは、各自のアクティビティを承認できます。アプルーバを使用せずに作業している場合は、アクティビティを拒否できません。ただし、変更を保存しない場合は、変更を廃棄できます。Workflow 以外のモードでは、[file] メニューで [Submit]

および [Discard] コマンドを使用して、設定セッションを送信（して自動的に承認）するか、または設定セッションを廃棄します。

アクティビティ アプルーバを使用する Workflow モードでは、アクティビティを送信しないと、アクティビティを開いたり承認したりできません。このモードでは、アクティビティを拒否することもできます。

アクティビティを承認すると、ポリシーおよびポリシー割り当てがデータベースにコミットされ、デバイスまたはファイルに展開できるようになります。アクティビティに関連付けられたデバイスはロック解除されるため、ポリシー定義に含めたり、他のアクティビティで変更したりできます。

アクティビティを拒否すると、アクティビティは [Edit] 状態に戻ります。送信者は、アクティビティを再び開いて必要な変更を行い、承認のために再送信できます。アクティビティに関連付けられたデバイスはロック解除されないため、ポリシー定義に含めたり、他のアクティビティで変更したりできません。



(注) アクティビティの承認後に変更を元に戻すことはできません。新しいアクティビティを作成し、ポリシーおよびポリシー割り当てを手動で目的の状態に変更する必要があります。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットを開く \(19 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットの状態について \(5 ページ\)](#)

ステップ 1 以下の適切な手順を実行します。

- アクティビティを承認するには、次のいずれかを実行します。
 - アクティビティを開いて、アクティビティツールバーの[アクティビティの承認 (Approve Activity)] ボタンをクリックするか、メニューから[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの承認 (Approve Activity)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウでアクティビティを選択し、[承認 (Approve)] をクリックします。
- 1 つまたは複数のアクティビティを拒否するには、次のいずれかを実行します。
 - アクティビティを開いて、アクティビティツールバーの[アクティビティの拒否 (Reject Activity)] ボタンをクリックするか、メニューから[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの拒否 (Reject Activity)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウで 1 つまたは複数のアクティビティを選択し、[拒否 (Reject)] をクリックします。

[アクティビティの承認 (Approve Activity)]、[アクティビティの拒否 (Reject Activity)]、または [複数のアクティビティの拒否 (Reject Multiple Activities)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ2 [コメント (Comment)] フィールドに、1つまたは複数のアクティビティを承認または拒否する理由を示す簡単な説明を入力します。拒否する場合は、推奨リビジョンを含めることができます。

ステップ3 [OK] (単一のアクティビティの場合) または [拒否 (Reject)] (複数のアクティビティの場合) をクリックします。[Activity Manager] ウィンドウで、アクティビティ ステータスが [Approved] または [Edit] (拒否された場合) に変わります。このウィンドウの要素の詳細については、[アクティビティ/チケットマネージャ ウィンドウ \(13 ページ\)](#) を参照してください。

アクティビティ/チケットの破棄

アクティビティ/チケット (Workflow 以外のモードでは設定セッション) が不要になった場合は、破棄できます。アクティビティ/チケットを破棄すると、そのアクティビティ内で定義されていたすべてのポリシーおよびポリシー割り当てが削除されます。これらのポリシーおよびポリシー割り当てはデータベース内には存在しないため、展開はできません。

廃棄されたアクティビティは、Security Manager の Workflow 設定で定義されている設定に基づいてシステムから削除されます。また、そのアクティビティに関連付けられているデバイスがロック解除され、他のアクティビティで使用できるようになります。詳細については、[\[Workflow\] ページ](#) を参照してください。

破棄されたチケットは、Security Manager の [チケット管理 (Ticket Management)] で定義されている設定に基づいてシステムから削除されます。また、そのチケットに関連付けられているデバイスがロック解除され、他のアクティビティで使用できるようになります。チケットがシステムから削除されるまで、チケットの状態は [破棄 (Discarded)] と表示されます。詳細については、[\[チケット管理 \(Ticket Management\)\] ページ](#) を参照してください。



- (注) チケットが破棄されても、そのチケットに割り当てられたイメージ管理ジョブは自動的に破棄されません。必要に応じて、Image Manager で該当するチケット ID を持つ保留中のイメージ管理ジョブを検索し、それらのジョブを削除する必要があります。

アクティビティ/チケットを破棄するには：

Workflow モード：次のいずれかを実行します。

- 単一のアクティビティを破棄するには、次のいずれかを実行します。
 - アクティビティを開いてから、アクティビティ ツールバーの [破棄 (Discard)] ボタンをクリックするか、[アクティビティ (Activities)] > [アクティビティの破棄 (Discard Activity)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウからアクティビティを選択し、[破棄 (Discard)] をクリックします。廃棄できるのは、Edit または Edit Open の状態にあるアクティビティだけです。

どちらの方法を使用した場合も、[Discard Activity] ダイアログボックスでプロンプトが表示されます。このダイアログボックスで、アクティビティを廃棄する理由を説明する任意のコメントを入力できます。コメントを入力し、[OK] をクリックしてアクティビティを破棄します。

- 複数のアクティビティを破棄するには、[管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。[Activity Manager] ウィンドウで、破棄するアクティビティを選択してから、[破棄 (Discard)] をクリックします。破棄できるのは、[編集 (Edit)] または [編集中心 (Edit Open)] の状態にあるアクティビティだけです。

[複数のアクティビティを破棄 (Discard Multiple Activities)] ダイアログボックスでプロンプトが表示されます。このダイアログボックスで、アクティビティを破棄する理由を説明する任意のコメントを入力できます。他のユーザーに属するアクティビティを選択した場合は、それらのアクティビティを破棄するか、[選択した他のユーザーに属するアクティビティも破棄する (Discard selected activities of other users as well)] チェックボックスを使用しないことにするかを選択できます。コメントを入力し、必要に応じて [選択した他のユーザーに属するアクティビティも破棄する (Discard selected activities of other users as well)] チェックボックスをオンまたはオフにしてから、[OK] をクリックして、選択したアクティビティを破棄します。

チケット管理が有効な Workflow 以外のモード：次のいずれかを実行します。

- 単一のチケットを破棄するには、次のいずれかを実行します。
 - チケットを開き、チケットツールバーの [破棄 (Discard)] ボタンをクリックするか、[チケット (Tickets)] > [チケットの破棄 (Discard Ticket)] を選択します。
 - [管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。[Ticket Manager] ウィンドウでチケットを選択し、[破棄 (Discard)] をクリックします。破棄できるのは、[編集 (Edit)] または [編集中心 (Edit Open)] の状態にあるチケットだけです。

どちらの方法を使用した場合も、[チケットの破棄 (Discard Ticket)] ダイアログボックスでプロンプトが表示されます。このダイアログボックスで、チケットを破棄する理由を説明する任意のコメントを入力できます。コメントを入力し、[OK] をクリックしてチケットを破棄します。

- 複数のチケットを破棄するには、[管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。[Ticket Manager] ウィンドウで、破棄するチケットを選択してから、[破棄 (Discard)] をクリックします。破棄できるのは、[編集 (Edit)] または [編集中心 (Edit Open)] の状態にあるチケットだけです。

[複数のチケットを破棄 (Discard Multiple Tickets)] ダイアログボックスでプロンプトが表示されます。このダイアログボックスで、チケットを破棄する理由を説明する任意のコメントを入力できます。他のユーザーに属するチケットを選択した場合は、それらのチケットを破棄するか、[選択した他のユーザーに属するチケットも破棄する (Discard selected tickets of other users as well)] チェックボックスを使用しないことにするかを選択できます。コメントを入力し、必要に応じて [選択した他のユーザーに属するチケットも破棄する (Discard selected tickets of other users as well)] チェックボックスをオンまたはオフにしてから、[OK] をクリックして、選択したチケットを破棄します。

チケット管理が無効な Workflow 以外のモード : [ファイル (File)] > [破棄 (Discard)] を選択して、現在の設定セッション内の変更を廃棄します。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットを開く \(19 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケットの状態について \(5 ページ\)](#)

アクティビティ/チケットのステータスおよび履歴の表示

Workflow モードでは、[Activity Manager] ウィンドウでアクティビティの変更のステータスおよび履歴を表示できます。チケット管理が有効になっている Workflow 以外のモードでは、Ticket Manager ウィンドウでチケットのステータスと変更の履歴を表示できます。

アクティビティのウィンドウを開くには、ツールバーで [Activity Manager] ボタンをクリックするか、[管理 (Manage)] > [アクティビティ (Activities)] を選択します。

チケットのウィンドウを開くには、ツールバーで [Ticket Manager] ボタンをクリックするか、[管理 (Manage)] > [チケット (Tickets)] を選択します。

上部ペインに、アクティビティ/チケットの現在の状態を含む、すべての使用可能なアクティビティ/チケットが一覧表示されます。アクティビティ/チケットを選択すると、下部ペインの次のタブに追加情報が表示されます。

- [詳細 (Details)] タブ : アクティビティ/チケットが作成された日時とその説明が表示されます。
- [履歴 (History)] タブ : アクティビティ/チケットのトランザクション履歴が表示されます。状態が変更されるたびに、変更のレコード (変更を行ったユーザーや、変更に関するコメントなど) が保持されます。

関連項目

- [アクティビティについて \(1 ページ\)](#)
- [アクティビティ/チケット マネージャ ウィンドウ \(13 ページ\)](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。